

防衛北海道

Bouei Hokkaido
February 2014
Hokkaido
Defense Bureau
Ministry of Defense



Vol.32



Photo: (上) 稚内港に入港するミサイル艇「わかたか」
(下) 接岸準備する隊員

(提供: 海上自衛隊 余市防備隊)

編集・発行 **防衛省北海道防衛局 広報誌等編集委員会**

札幌市中央区大通西12丁目 札幌第3合同庁舎

Tel.011-272-7579

<http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>



北海道防衛局長新年御挨拶



島川 正樹 北海道防衛局長

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より北海道防衛局への御支援と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年6月に矢臼別演習場で発生した米海兵隊の実弾射撃訓練時における場外着弾事故に際しましては、道民の皆様にも多大な御心配、御不安をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。

さて、昨年12月17日に我が国として初めての「国家安全保障戦略」が策定され、それを踏まえた「平成26年度以降に係る防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画（平成26年度～平成30年度）」が閣議決定されました。これら3つの文書は、国家安全保障会議の設置に続く、安全保障政策の重要な柱となるものです。

とりわけ新たな「防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画」については、我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、国民の生命と財産、我が国の領土・領海・領空を断固として守り抜くという安全保障・防衛政策の新たな指針が打ち出されたものと考えております。

新たな防衛計画の大綱においては、多様な活動を総合運用により、シームレスかつ機動的に行いうる「総合機動防衛力」を構築することとしております。道内に関連した事柄を申し上げますと、道内の師団・旅団は、「機動運用部隊」としての「機動師団・機動旅団」及び「機甲師団」に改編されるとともに、防衛力の能力発揮のための基盤として、各自衛隊の戦術技量の向上のため訓練・演習の充実・強化に努めるに際し、北海道の良好な訓練環境を一層活用すること、さらには防衛施設の整備・運用のため防衛施設周辺対策事業を引き続き推進することとされています。

北海道防衛局は、防衛省・自衛隊と地域の皆様を結ぶ北海道における防衛行政の拠点として、防衛施設とその周辺地域とのより一層の調和を図るため、地方公共団体等との緊密な連携を一層強化してまいります。

国の防衛は、国民一人一人の支援がなくては成り立ちません。北海道防衛局は、防衛省・自衛隊の活動を広く道民の皆様にご覧いただくため、平素から防衛省・自衛隊の政策や活動について積極的に説明を行い、防衛施設周辺自治体・地域住民の皆様のご理解、御協力を賜るべく引き続き努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

北海道防衛局の周辺対策事業

北海道には自衛隊等が使用する演習場・飛行場など、数多くの防衛施設が所在しています。

これらの防衛施設は、自衛隊等の活動の基盤であり、北海道のみならず我が国の安全保障に欠くことのできないものですが、設置・運用に伴い種々の障害が発生し、周辺住民の生活環境に多大な影響を及ぼしていることから、北海道防衛局は、これら障害の防止や軽減措置等を積極的に行い、障害の緩和を講ずることにより、周辺地域の皆様のご理解と御協力を得ることとし、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律に基づき、障害防止事業（洪水対策、土砂流出対策等）、道路改修事業、騒音防止事業、民生安定施設整備事業（公園、消防施設、農業用施設、ごみ処理施設、公民館、学習等共用施設等）、防衛施設が所在することにより周辺地域の生活環境やまちづくりに大きな影響を及ぼしている市町村に対して特定防衛施設周辺整備調整交付金を交付するなど、様々な施策を行っています。

これらの施策は、周辺住民の生活環境の改善に資することから、北海道防衛局では今後とも周辺対策の推進に努めてまいります。



恵庭市：ルルマップ自然公園ふれんど

ルルマップ自然公園ふれんどは、農村風景が広がり緑豊かな自然が溢れる地域特性を生かし、地域住民が気軽に「遊び」「くつろぎ」の場となる公園を整備することにより、民生安定に寄与しています。

※ 同施設の平成25年度の利用実績は、少年サッカー大会や地域夏祭りなど約4万9千人にのぼります（平成25年11月末現在）。（写真提供：恵庭市）



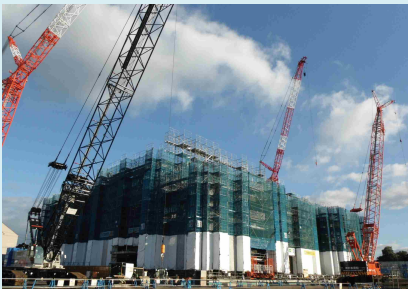
苫小牧市：拓進児童クラブ

拓進児童クラブは、昼間、家庭を不在にする保護者の児童に対して、適切な遊び及び生活の場を提供することにより、児童の健全な育成を図っています。

※ 同施設の利用時間は、13時～18時で、利用する児童数は、1日当たり30～40人となっています。（写真提供：苫小牧市）

自衛隊札幌病院建設現場見学会

昨年11月11日から21日にかけて、北海道防衛局は、陸上自衛隊真駒内駐屯地に建設中の自衛隊札幌病院の建設現場において、自衛隊札幌病院に勤務する医療関係者のほか自衛隊部隊関係者等を対象に建設現場見学会を実施しました。



建設中の自衛隊札幌病院
(25.10.28現在)



完成予想図

自衛隊札幌病院は、昭和30年に陸上自衛隊豊平駐屯地に開院された北海道地区唯一の自衛隊病院です。平成19年には、保険医療機関に指定され、一般の患者も受け入れています。現在の自衛隊札幌病院は、経年劣化による施設の老朽や最新医療をスムーズに導入できないなどの問題が浮上したため、陸上自衛隊真駒内駐屯地に、新・自衛隊札幌病院を建設することになりました。建築規模は地上6階、地下1階、延床面積約22,700㎡。内科、外科、整形外科、歯科、産婦人科、小児科及び救急科等、計16診療科の診療処置部門を持ち、計200床の病室を備えた総合病院です。

現在建設中の新病院が備える特性は、災害時における拡張性の確保として、各病棟及びその他の機能室で200床から400床へ増床可能となる施設や、これに必要な医療ガス等のパイピング等付帯設備の整備、新型インフルエンザ対処等院内感染予防対策として、排換気設備及び発熱外来者を病棟へ直接搬送できるエレベーターの設置、大量患者受入れ時の患者と医療スタッフそれぞれの他の別動線の確保等を兼ね備えています。また、災害に強い施設として免震構造の採用や、エネルギー源確保の多重化を行うとともに、公共施設としての環境負荷削減についても配慮した設計となっています。

見学会では、新病院が備える各種特性について説明し、高い強度を有し建物内部に大空間を確保できるプレキャスト・プレストレストコンクリート構造の柱や梁などの構造体や、建物と基礎の間に設置した免震層が大地震時に大きく変形することで建物本体の揺れを軽減する免震構造など、建設途中でしか確認できない箇所や工法の見学を行いました。

柱や梁などの構造体をプレキャスト・プレストレストコンクリート造にして大空間を確保し、部屋間の壁をボード張りの間仕切りとすることにより、将来、ニーズが変わった際に容易に模様替えなどを行うことができます。また、免震構造にすることにより、大地震時にも診療機能の維持を確保するとともに、災害時における防災拠点としての運用が可能になります。

また、今後施工する病室のモデルルームを設置し、床、壁、扉などの色彩計画、洗面台や照明のスイッチなどの使い勝手、各ベッドに備える医療機器の配置などを確認するほか、災害時に増床する際のベッドの配置や医療機器の接続などについて、実際に増床するベッドなどを配置して確認しました。

期間中、見学会には田邊北部方面総監や千先自衛隊札幌病院長を含む約230人の方々が参加し、見学者の方々からは設備類の取り付け位置や高さなどについてさまざまな御意見が寄せられました。北海道防衛局調達部では、いただいた意見をできる限り新病院の工事に反映させ、平成27年春の開院に向け、着実に工事を実施してまいります。



新病院が備える各種特性の説明



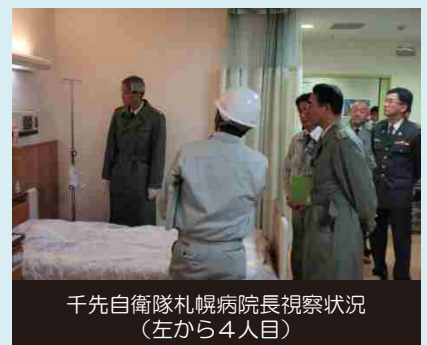
免震構造の説明
(制震オイルダンパー：矢印)



病室完成予想図



田邊北部方面総監視察状況
(左から1人目)



千先自衛隊札幌病院長視察状況
(左から4人目)



平成25年度日米共同方面隊指揮所演習

北海道防衛局

YAMA SAKURA 65に参加!



日米間における民事調整会議

日米共同方面隊指揮所演習『YS (CodeName「YAMA SAKURA」)』は、日本への武力攻撃事態等を想定したシナリオに基づき、陸上自衛隊と米陸軍等が、共同対処行動を実施する場合の指揮幕僚活動をコンピュータ・シミュレーションにより演練するもので、本演習は、日米共同訓練として最大規模の指揮所演習であり、日米の相互理解と意思疎通を深め、相互運用性を向上させるために最も重要な訓練と位置づけられています。

YSは、昭和57年から31年間にわたり継続されており、毎年2回実施し、奇数回数は日本で、偶数回数は米国で実施され、今回は65回目の実施となります。

今回の訓練は、昨年11月29日～12月12日の間、陸上自衛隊東千歳駐屯地（千歳市）で実施され、日本側が田邊揮司良北部方面総監を統裁官に陸上自衛隊約4,500人、米側が太平洋陸軍司令官のピンセント・ブルックス大將を統裁官に太平洋陸軍司令部、在日米陸軍司令部、米第1軍団、海兵隊など約1,500人が参加しました。

◆YSの沿革

S56.10 初の日米共同演習（東部方面隊）

S57. 2 初の日米陸上共同指揮所演習
（YS-1 東部方面隊）

S57(YS-2)～H7(YS-25) 北部方面隊が担任

H8～ 各方面隊が交替で担任

H25(YS-65) 北部方面隊が担任（14回目）

◆YS-65の概要

<訓練期間>

平成25年11月29日(金)～12月12日(木)

<訓練場所>

陸上自衛隊東千歳駐屯地(千歳市)

<訓練の特性>

- 共同・統合作戦の深化
- 迅速正確な情報共有
- 統合運用基盤の確立
- 関係機関と国民保護措置を訓練
- 段階的に関係機関との連携訓練を実施
- YS-65の中で国民保護措置に係わる演習に反映
- 米第1軍団が約6年ぶりに演習参加
- 北部方面隊は前回（H21 YS-57）から4年ぶりに実施

在日米陸軍のシンボル
「富士山：YAMA」



陸上自衛隊のシンボル
「桜：SAKURA」



北海道防衛局では、この訓練に、本局職員のほぼ半数に当たる約70名が参加、24時間の勤務態勢で、日米間における各種調整、会同及び会議に参加し、武力攻撃事態における地方防衛局の役割とその対処要領等を演練しました。

北海道防衛局は、今後も自衛隊及び米軍の支援はもとより、国民保護計画における地方自治体との連携に取り組んでまいります。



左から在札幌米国総領事館ゴーク首席領事、米陸軍第1軍団長ブラウン中將、北海道防衛局島川局長、米陸軍第1軍団ルイスマッコード統合基地カナダ軍ツレーン准將、米陸軍第1軍団司令部第9部（民事）長（G9）グランフィールド大佐



米軍担当者と局担当者ととの活発な意見交換を実施



米軍との事前調整には当局LO（Liaison Officer：連絡員）が活躍



ブリーフィングを受ける全国の防衛局職員

訓練期間中は、次回以降のYSへの参加に備えるため、全国の防衛局職員が研修に訪れ、武力攻撃事態における地方防衛局の役割についてブリーフィングを受け、訓練地区内を見学しました。



昼間勤務者と夜間勤務者の引継と日々成果を確認する班長会議（東千歳駐屯地に設置された北海道防衛局テントブース）



陸上自衛隊 北部方面総監部 ～ 日米共同方面隊指揮所演習 (YS-65) において 第2回関係機関との連携訓練 (国民保護) 実施 ～

昨年11月29日、北部方面隊は、YS-65の機能別訓練の一部として、札幌駐屯地において第2回関係機関との連携訓練 (国民保護) を行いました。

今回の訓練は、9月26日に行われた第1回訓練に引き続き実施するもので、武力攻撃事態における関係部外機関と自衛隊の役割を明確化するとともに、相互の連携を強化して事態対処能力の向上を図るものであります。

訓練には、道をはじめとする市町村の自治体、指定公共機関等が参加する他、米軍がはじめて参加しました。

図上演習では道が行う避難の指示及び市町村の避難実施要領について検討調整するとともに、問題点を洗い出し、今後の事態対処能力の向上が図られました。

また、第2回関係機関との連携訓練 (国民保護) とは別に、12月9日には、関係機関の担当者が、東千歳駐屯地で実施中の総合訓練において、想定で行われた国民保護協議会の状況などを研修し、活発な意見交換を行いました。

札幌駐屯地で行われた関係機関との連携訓練



各自治体等が集まり討論



図上演習



米軍との調整



海上自衛隊 函館基地隊 ～ 第45掃海隊「はこだてカルチャーナイト2013」 における広報活動 ～

第45掃海隊 (隊司令・北山 健一郎2等海佐) 掃海艇「とびしま」、「ゆげしま」、「ながしま」は、昨年10月4日に催された函館市内近郊の文化・教育施設等の夜間開放と文化活動を通じ、市民の地域文化の創造と発展に寄与することを目的とする「はこだてカルチャーナイト2013」に合わせ広報活動を実施しました。



「はこだてカルチャーナイト2013」に参加した掃海艇「とびしま」、「ゆげしま」、「ながしま」

当日は、午後5時30分から午後9時まで3艇すべてが電灯艦飾を実施し、併せて「ゆげしま」は一般公開を行いました。

一般公開には1,055名の見学者が来艇し、見学者から電灯艦飾された掃海艇を見て、「きれいです。」「すごいですね。」などの感想が寄せられ、艦橋では双眼鏡を覗き込み「遠くまで見えますね。」などの感激した声が聞こえ、後部甲板では掃海作業の説明に興味深く聞いていました。

また、「ゆげしま」の艦番号にちなみ、679番目の見学者となった家族で見学に来ていた女の子に「ゆげしま」艇長から記念品をプレゼントしたところ、女の子は満面の笑みで受け取っていました。

午後9時に電灯艦飾終了とともに、一般公開も無事終了しました。



航空自衛隊 北部航空方面隊

北部航空警戒管制団 第26警戒隊



北部航空警戒管制団の隷下部隊の一つである第26警戒隊は、根室分屯基地に所在する部隊です。通常レーダーサイトは任務の性格上、電波の見通しの良い山頂等に設置されていますが、根室分屯基地は、珍しく住宅街近傍の平地にあり、また、日本列島の最東端に所在しています。

第26警戒隊の主な任務は日本の空の警戒監視であり、北方領土との距離が近いこと警戒監視の最前線として、とても重要なポジションを担っています。そのため所属隊員は皆、その重要性を深く認識し、日々厳しい各種任務及び訓練等に励んでいます。

第26警戒隊には、隊長である大保誠司2等空佐以下約170名が所属しています。今年度はフレッシュな若い隊員が多く配属されたこともあり、とても元気溢れる部隊になりました。

根室市で行われる行事には多くの隊員が参加するほか、地域住民との交流が盛んで、根室自衛隊協力会を始めとする自衛隊協力団体の活動も活発であり、隊員と住民の間ではとても良好な関係を築かせていただいています。

根室に来られた際は、名所の納沙布岬等を含む「根室十景」の観光や、根室港及び花咲港で6～9月に水揚げされる花咲がに、日本一の漁獲高を誇るさんま等の新鮮な魚介類を堪能していただきたいと思います。



根室分屯基地 第26警戒隊



根室納沙布岬から望む北方4島



金刀比羅神社例大祭に参加する隊員

過去最高の来場者 北音隊の演奏で魅了 「千歳基地クリスマスコンサート」



昨年12月1日、千歳基地（基地司令小川能道空将補）は、千歳市民文化センターにおいて、「千歳基地クリスマスコンサート」を行いました。

このコンサートは、毎年12月上旬に、青森県三沢基地に所在する北部航空音楽隊の演奏により行われており、昨年は、第1部で松井徹生隊長が、第2部では内田安年副隊長が指揮を執りました。

第1部は、「吹奏楽の響き」と題し、「ゴッド・スピード!」、「セント・フローリアン・コラール」、「シーガル〜アルトサクソフォンと吹奏楽のためのバラード〜」、「ノーブル・エレメント」を披露し、来場者は吹奏楽の醍醐味を堪能しました。

第2部では、「名曲でつづるクリスマスの1日」とし、「そりすべり」、「赤鼻のトナカイ」、「魔女の宅急便」、「ドリーム〜トロンボーン独奏〜」、「カートゥーン・ミュージック」、「クリスマス・フェスティバル」が演奏され、一足早いクリスマスの雰囲気になりました。

約1,300席の会場はほぼ満席で、過去最高の来場者を迎えました。「千歳基地クリスマスコンサート」では、子供から大人まで楽しめる楽曲を北部航空音楽隊が演奏し、来場者を魅了しました。



帯広防衛支局だより

～十勝飛行場の障害立木補償～



道東のオホーツク、十勝、釧路各総合振興局管内及び根室振興局管内の防衛施設を管轄する帯広防衛支局では、陸上自衛隊十勝飛行場（帯広市）の航空機の飛行安全を確保するため、平成21年度から飛行場周辺の物件制限に抵触する立木の撤去を行っています。本稿では、この状況について簡単にご紹介します。

十勝飛行場の沿革

陸上自衛隊第5旅団第5飛行隊や第1対戦車ヘリコプター隊が所在する十勝飛行場（旧帯広空港）は、昭和7年に帯広飛行場として完成し、その後、昭和15年に旧陸軍「帯広第一飛行場」となり、陸軍航空隊が創設されました。終戦後、駐屯した米軍が破壊した滑走路を、昭和30年度に帯広防衛支局の前身である防衛庁建設本部札幌建設部帯広支部が補修・復旧し、昭和31年から陸上自衛隊が帯広飛行場として使用を開始しました。昭和37年8月8日に帯広空港の設置が運輸大臣（現国土交通大臣）から許可されたことから、同年に飛行場用地を大蔵省（現財務省）に移管し、昭和39年12月1日に民間航空機が就航する帯広空港（旧運輸省が設置、帯広市が管理）として開港されました。その後、飛行場の拡張性等の問題から新空港を建設して移転することとなり、昭和51年1月13日に新帯広空港（現とかち帯広空港）の設置が運輸大臣から許可され、昭和56年1月22日の帯広空港の供用廃止告示とともに、同日、十勝飛行場周辺の物件の制限等のため昭和56年防衛庁告示第12号（以下「制限告示」という。）により物件制限等を行い、同年2月28日に昭和56年防衛庁告示第39号により防衛庁長官（現防衛大臣）が設置管理する十勝飛行場となりました。その後数度の告示の変更を経て現在に至っています。

十勝飛行場の航空障害立木

自衛隊法第107条第2項の規定により、防衛省が設置する飛行場には航空法第49条（物件の制限等）が準用されますが、概念図に示すように、十勝飛行場では、滑走路南西側に所在する帯広市立公園「帯広の森」の一部立木と滑走路東端に所在する帯広市南町配水場の一部立木が物件制限（進入表面、転移表面及び水平表面）を超え障害となることが判明したことから、防衛庁では平成17年9月に飛行場管理者である帯広駐屯地司令から帯広市に対し障害物件の撤去について要請してきました。平成19年8月に帯広市から制限告示以降に植林した立木は環境に配慮し平成19年度から段階的に撤去するとともに、制限告示の際現に所在した「帯広の森」整備植林立木の撤去費用等については、航空法第49条第3項に基づき国で負担をお願いしたい旨の回答がありました。

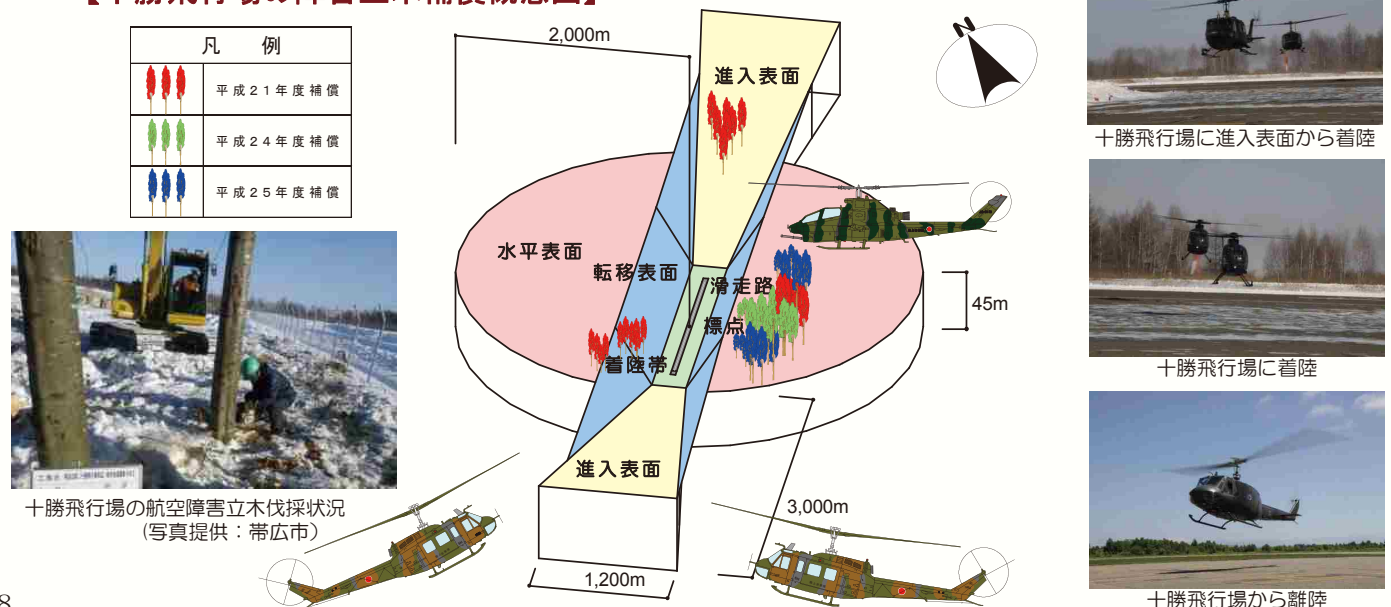
十勝飛行場の安全管理に向けて

このため、帯広駐屯地が障害物測量調査を実施した結果、制限告示以前から植林されている障害立木が約1,000本存在することが判明し、帯広防衛支局と帯広市との間で協議を進めたところ、帯広市が伐採を担当し、伐採等に要する費用及び通常生ずべき損失については、複数年に分けて国が補償することとなりました。

帯広防衛支局では平成21年度、24年度及び25年度に帯広市と損失補償契約を締結し事業を進めてまいりましたが、平成25年度末までには航空機の離着陸等に障害となる立木はすべて伐採され、事業完了の予定です。

帯広防衛支局では、国有財産管理者として今後も十勝飛行場を含む道東地区の防衛施設の適切な管理を行っていく所存です。

【十勝飛行場の障害立木補償概念図】



北海道内の防衛施設

道場巡り～日本最大長射程対空射撃道場～

静内対空射撃場(新ひだか町)

本シリーズは、日頃なかなか目に触れることの少ない防衛施設にスポットを当て、皆様に御紹介するものです。

陸上自衛隊静内対空射撃場は、日高地方の中央に位置する新ひだか町の中心部から海岸沿いに約7.5Kmに位置します。射撃場周辺では軽種馬生産を主な産業としていますが、畑、採草地、農家用宅地、海浜地(海産干場)に区分され各々有効に活用されています。

射撃場内にある施設としては、廠舎1棟(約340人収容)、整備工場、対空射撃訓練場、コントロールタワー等があり、静内駐屯地業務隊が管理しています。

この射撃場に隣接して、静内対空射撃場水域を年度ごとに設定しており、1区域は半径40Km、2区域は半径20Kmの扇形であり、国内で唯一短距離地对空誘導弾を実射できる施設です。

この射撃場の使用状況としては、第1高射特科団(千歳市)、第7高射特科連隊(新ひだか町)の他、道内外の各師団の高射特科の大・中隊等にも使用され、81式短距離地对空誘導弾(短SAM)を始めとする各種誘導弾及び87式自走高射機関砲等による対空射撃訓練並びに無人偵察機による飛行訓練に使用されています。

平成24年度では年間約210日、延べ約3.2万人の隊員が、練度向上のため静内対空射撃場で厳しい訓練に励んでいます。



81式短距離地对空誘導弾(短SAM)の射撃



87式自走高射機関砲の射撃



静内対空射撃場水域
1区域(半径40km)
2区域(半径20km)

(写真提供: 第7高射特科連隊)

防衛施設所在の首長さんからのメッセージ



新ひだか町
酒井 芳秀町長

新ひだか町は、北海道の南東部、日高管内の中央に位置し、峰々が連なる日高山脈を背に雄大な太平洋を望むロケーションのもと、温暖な気候に恵まれた「涼夏少雪」の町です。産業では、軽種馬育成や和牛生産を中心とした農業、昆布漁やサケ漁を中心とした漁業、豊かな森林資源を活用した林産業などの第1次産業を基幹産業としながら、日高管内でも随一の活気と規模を誇る商業が活発に展開されています。

観光では、日本屈指の桜の名所として親しまれている二十間道路があり、毎年5月上旬に開催する「桜まつり」には全国から20万人もの観光客が訪れているほか、阿波踊りをメインとした「夏まつり」や「みついし蓬菜山まつり」など四季折々の祭りやイベントを開催して

います。

当町に所在する陸上自衛隊静内駐屯地では、400名を超える隊員が日夜訓練に励まれているほか、隣接する静内対空射撃場は、全国で唯一の海上に向けて短距離地对空誘導弾が実射できる射撃場として、年間3万人を超える隊員が演習等に訪れています。

当町にとって、静内駐屯地は地域の安全・安心を確保する上で欠かすことのできない存在であることはもちろんのこと、ここで暮らす隊員の皆さんは、地域の活力として様々な場面で大きな役割を担っていただいているところであり、今後とも互いに連携しながら、より良いまちづくりに取り組んでまいりたいと考えています。



夏まつり「阿波踊りパレード」に出場する静内駐屯地の隊員

(写真提供: 新ひだか町)

北海道防衛局からのお知らせ

北海道防衛局は、平成25年度の工事及び業務の発注見通しを更新し平成26年1月6日のホームページに公表しました。入札参加を希望される方は御覧下さい。 URL (アドレス) <http://www.mod.go.jp/rdb/hokkaido/>



平和を、仕事にする。

平成26年度 自衛官募集



募集種目	募集人員	資格	受付期間 締切日必着	試験期日	
幹部候補生	一般	参考(25年度) ※ 陸 約105名 (うち女子約10名) 海 約60名 (うち女子約15名) 空 約60名 (うち女子約10名)	22歳以上26歳未満の者 (20歳以上22歳未満の者は大卒(見込含)、修士課程修了者等(見込含)は28歳未満)	2月1日 ～4月25日	1次5月10・11日 11日は飛行要員のみ 2次6月10～13日 海・空飛行要員のみ 3次(海)7月7日 ～11日 (空)7月19日 ～8月7日
	院卒者試験	参考(25年度) ※ 陸 約10名 海 約20名 空 約10名	修士課程修了者等(見込含)で、 20歳以上28歳未満の者		
自衛官候補生	男子	募集人員若干名	18歳以上27歳未満の者	最寄りの地方協力本部へおたずね下さい	
予備自衛官補	一般	北海道：約100名	18歳以上34歳未満の者		
	技能	北海道：約20名	18歳以上で国家免許資格等を有する者(資格により53歳未満～55歳未満の者)	1月8日 ～4月2日	4月11～15日いずれか1日を指定されます。



札幌地方協力本部
011(631)5472



函館地方協力本部
0138(53)6241



旭川地方協力本部
0166(51)6060



帯広地方協力本部
0155(23)2485

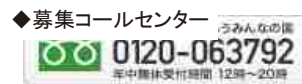


自衛官募集携帯サイト

◆他の種目や詳しい内容は最寄の自衛隊地方協力本部へお問い合わせ下さい。

注)※：25年度における全国の募集人員数です。平成26年度の募集人員につきましては、決定次第、自衛官募集ホームページ等でお知らせします。

自衛官募集ホームページ
<http://www.mod.go.jp/gsdff/jieikanbosyu/>



平成26年度 国家公務員採用試験の日程 (事務官等)

試験名	インターネット 申込み期間	第1次試験	第2次試験	最終 合格発表
総合職試験	4/1(火)～8(火)	4/27(日)	5/25(日)(筆記) 6/4(水)～13(金)(政策課題討議・人物)	6/23(月)
			5/25(日)(筆記) 5/27(火)～6/13(金)(人物)	
一般職試験(大卒程度試験)	4/9(水)～21(月)	6/15(日)	7/16(水)～8/4(月)	8/20(水)

※国家公務員採用試験の詳しい内容につきましては、採用情報ナビ (<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>) をご覧ください。

【第26回防衛問題セミナー開催】

- テーマ：新たな防衛計画の大綱と北海道を取り巻く安全保障環境
- 開催日：平成26年2月22日(土) 開演13:00 会場13:30
- 会場：千歳市民文化センター 大ホール
- 後援：千歳市
- 講演者：① 防衛省防衛政策局防衛計画課長 中嶋 浩一郎
② 航空自衛隊第2航空団司令兼千歳基地司令 小川 能通
- 演奏：陸上自衛隊 第7音楽隊



2月～3月 道内自衛隊等の主なイベント

開催日	開催場所	イベント名	お問合せ
2月 8日(土)	函館市民会館大ホール	航空自衛隊 北部航空音楽隊演奏会	函館地方協力本部 0138-53-6241
2月16日(日)	札幌Jソール「kitara」	第11音楽隊 第16回室内楽演奏会	第11音楽隊企画班 011-581-3191
2月22日(土)	千歳市民文化センター	第26回防衛問題セミナー	北海道防衛局地方調整課 011-272-7571
	旭川市民文化会館	ウィンターコンサート	旭川地方協力本部 0166-51-6055
3月 8日(土)	北広島芸術文化ホール	第7音楽隊 第38回定期演奏会	第7師団広報 0123-23-5131
3月 9日(日)	札幌Jソール「kitara」	北部方面音楽隊 第71回定期演奏会	北部方面音楽隊 011-581-3191
3月 上旬	釧路市民文化会館	釧路自衛隊 ミュージックフェス	釧路駐屯地広報班 0154-40-2011

注：行事予定は都合により延期又は中止される場合がありますので、各問合せ先へ御確認願います。